

○第1期・第2期 まち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標（達成状況）

【資料2】

基本目標	基本施策 数値目標	単位	基準値		目標値(b)	平成31年度（令和元年度）				令和3年度				検証（乖離にかかる要因・外部環境の変化・指標にかかる状況の変化・その他の定性的効果等）
			基準値(a)	年度		R2.3値(c)	R2.3値出自	目標値比較 (d)=c-b	基準値比較 (e)=c-a	R4.2値(c')	R4.2値出自	目標値比較 (d')=c'-b	基準値比較 (e')=c'-a	
基本目標1 若年層が選 びやすい環 境をつくる	20～39歳の社会増減	人	▲ 243	H26	0	▲ 188	H31.1.1 ～R1.12.31	▲ 188	55	▲ 127	R3.1.1 ～R3.12.31	▲ 127	116	基準値に対して116人改善したが、現状も大幅な転出超過が続いている。転出342人のうち225人が20代であり、全世代においても突出した状況である。傾向に変化は見られないことから、今後も若年層の定住促進に取り組んでいく必要がある。
基本目標2 「住みたく なる」子育て環境をつくる	0～14歳の社会増減	人	28	H26	60	24	H31.1.1 ～R1.12.31	▲ 36	▲ 4	33	R3.1.1 ～R3.12.31	▲ 27	5	基準値よりも5人改善してはいるが、いまだ目標値の半数程度である。本指標は基本目標1に掲げている「20～39歳の社会増減」に影響を受ける項目であると考えていることから、引き続き若年層の定住促進に取り組んでいく必要がある。
基本目標3 地域の資源 をしごとと お金にかえ る	町内民間事業所の従業者数	人	2,083	H26	2,100	1,986	H28調査	▲ 114	▲ 97	集計中	R3調査			基準値の根拠としていた「経済センサス」における従業者数の調査方法に変更があったため、現状では比較ができていない。 (H26基礎調査→H28活動調査→R3活動調査) なお、平成28年調査では基準値から97人減となっている。
基本目標4 避けること ができない 未来にそな える	これからも豊能町に住み続けたいと思う住民の割合	%	66.7	H21	75.0	66.3	住民アンケート満足度比較 R1.11 実施	▲ 9	▲ 0	未調査	住民アンケート			男女ともに転出したいよりも住み続けたいと思う割合が高くなっている。しかし、年齢別にみると年代があがるにつれ住み続けたいが増加するものの、18～39歳では転出したいが半数を超えている。また、18歳未満の子どもがいない人、地域活動に参加している人の方が、住み続けたいと思う割合が高くなる傾向がある。